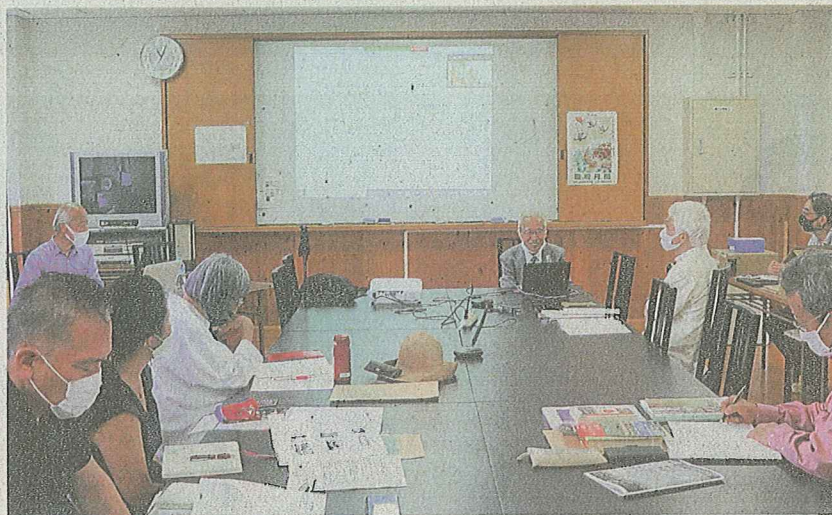


市民版



地域課題解決 手法学ぶ

市民大学院セミナー デザインなど専門家招き

生涯学習の重要性について講演する池上名誉教授
(中央奥)＝京都市下京区・旧成徳中

地域の文化を生かし「まちづくりの担い手」を育てる市民大学院。京区の旧成徳中であった。「文化政策・まちづく

る古郷彰治さんは、問題解決の手法「デザイン思考」を提唱。課題や需要を察する▽可視化し共有する▽アイデアを具現化する▽試作品を評価し修正する、という四つのプロセスの大切さを語った。その上で、分かりにくいエレベーターの開閉ボタンや旧跡の案内板など身近な例をもとに参加者と意見交換した。京都大名教授の池上博さんは生涯学習の重要性について講演した。厳しい競争にさらされた社会人らが、社会人大学院など研究の場を持ち得ることで自己の可能性に自信を持つて幸せを感じるようになる」と指摘した。

(片村有宏)

家庭で生かせ
有名料亭の

「菊乃井」村田さんが

本での「学び」と料亭を水から煮る理教室での「体験」を通して、京都の食文化を発信する催しが18日、京都市中京区の交流拠点「クエスチョン」であった。料理教室では、東山区の料亭「菊乃井」の村田吉弘さん(70)が自著の内容を踏まえ、家庭で生かせる名店の技を教えた。村田さんはだしの取り方や、しょうゆとみりん、酢、酒を混ぜて昆布と一煮立ちさせた調味料「うまみ酢」を用いた料理を、実際の調理を交えて指導。だ

「30年に1度の洪水」備え

2013年9月16日、京都市伏見区下鳥羽。台風18号の影響で鴨川が増水し、濁流が堤防を超えて住宅地に押し寄せた。自宅が床下浸水した女性(70)は「あつという間に水が膝上まで来た。道路ではトラックまで流されていた」と当時の状況を語る。

この時、鴨川の流量は戦後最大級を記録。鴨川で堤防を

超えて水があふれたのは、市街地に多大な被害をもたらした1935(昭和10)年の「鴨川大水害」以来という。越水地点の近くにあった農業用水の取水堰「龍門堰」に大量の流木やごみが滞留したことに加え、すぐ下流で合流する桂川の水量が急増していたことも影響したとみられる。府は2010年、今後30年

「面」10年超



川の下流。

の改修ほぼ完了

を目標期間とする「鴨川河川整備計画」を作り、流下能力が低い最下流の桂川合流点、七条大橋(約7・6キロ)の河川改修を柱の一つに位置付けた。過去最大の流量を上回る毎秒千ト(荒神橋地点)を想定した「30年に1度の洪水」にも対応できるよう、下流域から整備に着手したところだ。ただ、府河川課は「まさに流下能力が低い場所です。水が起きた。衝撃は大きかった」と振り返る。

その後、治水上の支障にな